

| | | | |
|---|-----------------------|---------------|---------------------|
| チャの有機栽培で活用できる生物農薬（BT 剤）によるチャノホソガの防除方法 | | | |
| <p>【要約】 二番茶期のチャノホソガに対する BT 剤の散布は、葉縁潜行期の散布が最も防除効果が高い。また、BT 剤の葉縁潜行期と巻葉初期の散布には、チャノホソガの虫糞害の抑制効果がある。さらに、BT 剤散布直後に直がけ被覆を行うと、その効果は向上する。</p> | | | |
| 農業技術振興センター・茶業指導所 | | 【実施期間】 | 平成 30 年度～令和元年度 |
| 【部会】 農産 | 【分野】 環境に配慮した農業 | 【予算区分】 | 県単 【成果分類】 指導 |

【背景・ねらい】

近年、わが国の緑茶輸出は大幅に増加しており、特に有機栽培茶の需要が高い。一方で、二番茶・秋番茶期は病害虫が多発するため、茶有機栽培に使用できる病害虫防除技術が求められている。二番茶で多発し、虫糞によって茶品質を低下させるチャノホソガに対しては、有機栽培で使用可能な資材として BT 剤があるが、紫外線に弱く残留活性が短いため、効果が不安定な点が課題となっている。

そこで、BT 剤によるチャノホソガに対する効果的な利用方法を確立するため、散布適期の検討を行うとともに、BT 剤の残留活性を高めることを目的として、紫外線透過抑制効果がある直がけ被覆の利用について検討する。

【成果の内容・特徴】

- ① 二番茶期のチャノホソガの産卵期、葉縁潜行期、巻葉初期と判断される時期に BT 剤をそれぞれ散布すると、葉縁潜行期の散布が最も巻葉と虫糞害を抑え、防除効果が高い（図 1、2）。
- ② BT 剤の巻葉初期の散布においても、葉縁潜行期の散布と同程度の虫糞抑制効果があり、チャノホソガの実害（茶の水色悪化）を減少させる効果は高い（図 2）。
- ③ BT 剤を散布した直後に直がけ被覆を実施すると、BT 剤の残留活性が高まると推察され、チャノホソガの虫糞抑制効果が向上する（図 3）。

【成果の活用面・留意点】

- ① 有機栽培における二番茶のチャノホソガの防除の基礎資料として活用できる。
- ② 薬剤は、有機 JAS 認証で使用が認められている BT 剤（商品名：エスマルク DF[®]）を 1000 倍で、慣行防除ではフルベンジアミド水和剤を 2000 倍で 200L/10a の液量で散布した。
- ③ 被覆区では、散布直後から遮光率 85% のラッセル織黒色被覆資材（ダイオ化成社製）で 7 日間直がけ被覆を行った。

[具体的データ]



図1 異なる発育ステージのチャノホソガによるチャの被害
(A) 産卵期 (B) 葉縁潜行期 (C) 巻葉初期

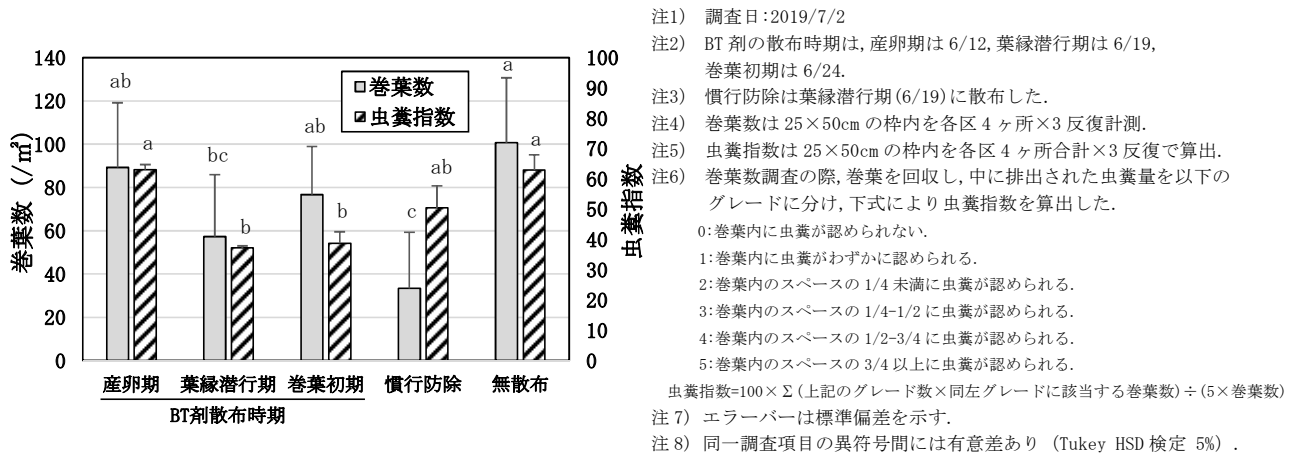


図2 異なる時期に散布したBT剤のチャノホソガの巻葉・虫糞に対する防除効果

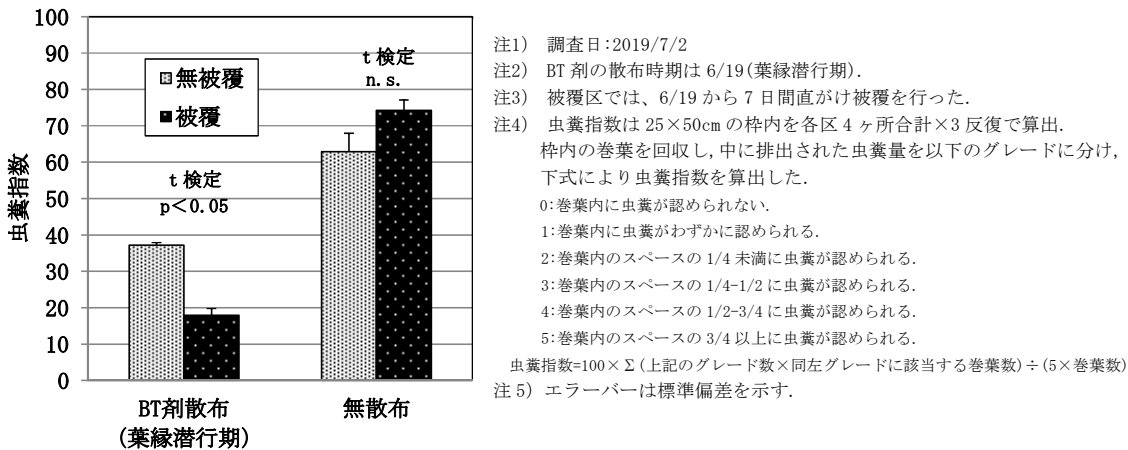


図3 直がけ被覆がBT剤のチャノホソガの虫糞抑制効果に与える影響

[その他]

・研究課題名

大課題名：環境に配慮した農業・水産業の展開に関する研究

中課題名：環境こだわり農業のさらなる推進

小課題名：「近江の茶」有機栽培技術の確立

・研究担当者名：松本敏幸 (H30～R1)、近藤知義 (H30)

・その他特記事項：

令和元年度2月の茶研究会で発表。